

(地方公共団体名)の概要・特徴等

平成13年1月21日、21世紀に最初に誕生する市として新市「西東京市」が誕生しました。西東京市の人口は17万9,710人、面積15.85平方キロメートル、世帯数7万7,925戸(ともに平成13年1月1日現在の田無市、保谷市の合算)で、近隣の都市では、三鷹市、小平市とほぼ同等の規模です。
【人口】205,907人【世帯数】100,085世帯(2020年10月1日現在)【高齢化率】約24%

解決したい地域課題

課題分野:①医療・介護・健康、②自治体DX・EBPM、③スマートシティ
新型コロナウイルスの影響は市民、特に高齢者が虚弱(フレイル)の状況に至ることが懸念されています。また、国からは、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施が求められています。加えて、ニューノーマルな時代に対応し、市民サービスやそれに伴う行政事務においては、非対面・非接触への転換も求められています。そのような中、特に高齢者のデジタル・ディバイドを解消することが課題となっています。これらを限られた職員・ノウハウ・財政により解決することは難しいので、民間等と連携し、5G・ICTや各種データを利活用・可視化することや、EBPMの取組を行うことで、自治体DXに取り組み、同時に、地域課題解決を通じて、スマート西東京市による、Society5.0社会の実現を目指したいと考えています。

ソリューション提案に対するアピールポイント

本市は、2016年12月に東京大学高齢社会総合研究機構とフレイル予防等の学術的研究及び地域社会の発展に寄与することを目的に連携協定を締結し、翌年4月より東京都内でいち早く、高齢者がフレイル状態を自分ごととして気づいてもらうための東大式のフレイルチェックを導入し、市民サポーターを軸としたフレイル予防の取り組みを行っています。本市は、「健康応援都市」として全ての施策に健康を掲げており、健康福祉部高齢者支援課が中心となり、庁内の組織横断的な体制作りや、市内外のステークホルダーとの各種調整を行います。